

第 51 回インナーゼミナール大会

研究計画書

ゼミ名	森ゼミ	チーム名	森 eats
タイトル	飲食店利用と UberEats		
テーマ群	g)その他		
メンバー	相浦友希・小澤悠太・樫岡千遥・小林亮太・宅間凜・中原美咲・森重結捺		
研究計画内容	<p>新型コロナウイルスの感染拡大は、世界中でパンデミックを加速させるなど、様々な悪影響を及ぼしてきた。特に飲食業界は、緊急事態宣言の発令により、休業要請、営業時間の短縮やアルコールの提供禁止となり、企業の倒産など、経済が衰退してきている。そこで新型コロナウイルスによる飲食店とテイクアウトの利用率の変化について考えていく。</p> <p>新型コロナウイルスが蔓延する前までは、飲食店へ自ら出向きいつでも食事やお酒を飲むことができる環境下であった。しかし、2020年4月からは緊急事態宣言の発令により、飲食店へ休業要請、企業や教育機関へはオンラインでの活動への要請がされた。今回、新型コロナウイルスの影響により、大きな打撃を受けた飲食業界は、生き残り戦略として、テイクアウトに力を入れ、営業を続けている飲食店が多い。テイクアウトに力を入ると同時に、UberEats など商品を自宅まで届けてくれるサービスが普及した。出来立ての商品を届けてくれることから、利用者は新型コロナウイルスが流行する以前よりも増加していた。年々増加傾向にあった利用者が、さらに増加した背景には、新型コロナウイルスの蔓延による緊急事態宣言などが後押ししているのではないかと考える。</p> <p>しかし、緊急事態宣言下による休業・時短要請に対し、応じていない飲食店も中にはあった。そこで、今回私たちは、「時短・休業要請に応じていない飲食店の利用頻度 (Y)」・「UberEats の利用頻度 (Y)」の 2 つの Y に対して、「家族構成 (X1)」はどれくらい影響があるのかを、実施したアンケートをもとに回帰分析で実証していく。</p> <p>現在暮らしている家に、高齢者や持病を持った家族がいる国民は、新型コロナウイルスに対する警戒心が強く、物をお店で購入することからネットでの購入へシフトしたりと外出は控えると考えられる。また、外食ではなくお店に電話をし、UberEats のような宅配代行サービスを利用し、食事を楽しむ方も多いのではないだろうか。以上のことを、回帰分析の結果を用いてまとめていく。</p>		